NL9728WB

－ バーコード収集システム －

取扱説明書

1.2c 版

日栄インテック株式会社
バーコードグループ

はじめに

■はじめに

この度は「NL9728WB」をご購入いただき、誠にありがとうございます。
ご使用の際に、次の注意がございますので、ご一読のほどお願い申し上げます。

■ ご注意

CRD972xRU 通信ユニットにて USB 接続を選択された場合は、付属のドライバーをインストールして下さい。

■ 安全上のご注意

⚠ 注意	⚠ 感電、けがの恐れがありますので、下記事項を必ずお守りください。
説明内容を無視した場合、傷害を負う可能性または物的損害を発生する可能性が想定されます。	■電源は正しく接続すること。 ■定格電圧以外の電圧を印加して使用しない ■分解しないこと。 ■製品を水に濡らさいないこと

■ ご使用上の注意事項

製品の故障・性能劣化や誤動作の原因となりますので、必ず次の内容をお守り下さい。

◎ ほこりや直射日光の当たる場所、高温、多湿となる場所は避けてお使い下さい。
◎ 水・油・薬品などのついた手で操作しないで下さい。
◎ 製品に強い衝撃を加えたり、落下させたりしないで下さい。
◎ 高電圧装置、大型モータなどの放射ノイズの大きい機器に接近しての使用は避けて下さい。
◎ ケーブルは強く引っ張ったり、屈曲させたりしないで下さい。
◎ 3ヶ月以上の放置は避けて下さい。二次電池まで空になると、内部プログラムが正常動作しなくなる可能性があります。その場合の復帰作業は、保障期間外である場合、有料となります。

■ 最新情報

弊社 WEB サイト http://www.barcode.ne.jp/で最新の情報をご覧いただけます。

目次

はじめに.....3
目次.....4
1. 添付品の確認.....6
2. 操作キーの名称.....6
3. 電池のセット.....6
4. 基本操作.....7
1) 本バーコードスキャナでの共通認識として.....7
2) 収集できるデータ.....7
3) 活用例.....7
4) 「バーコード 1」の設定(ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 有無・ﾊﾞｰ 1：2 回数).....8
5) 数量の設定.....9
5. メニュー構成.....10
6. 各種設定のデフォルト(既定)値.....12
7. 各メニューの説明.....15
A. メインメニュー.....15
B. データ収集.....16
C. データ確認.....19
D. データ送信.....24
E. 担当設定.....25
F. データ初期化.....27
G. システム設定.....28
H. 電池残量.....49
I. 空きメモリ.....49
8:仕様.....50

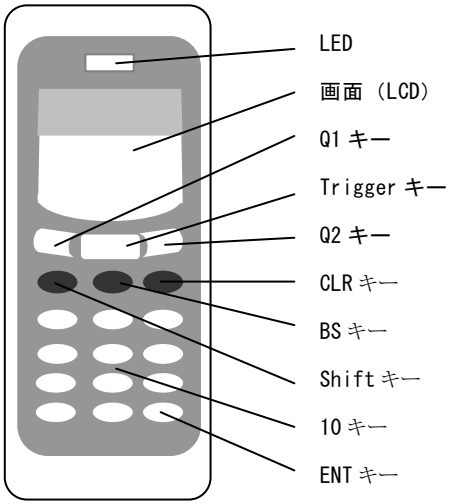
1. 添付品の確認

梱包箱を開けたら下記のものが添付されているかご確認下さい。

1） NL9728WB(本体)
2） ハンドストラップ
3） リチウムイオン充電池

2. 操作キーの名称

バーコードスキャナ操作キーの名称を図1に示します。



＜図1＞キーの名称

3. 電池のセット

1） NL9728WB 本体の裏面にある電池蓋をはずします。(爪等を剥がないように注意して作業してください)
2） リチウムイオン充電池をセットします。
3） 電池蓋を本体にセットします。

◎ 充電池の取り付け方向を間違わないで下さい。間違えて無理に装着しますと、故障の原因になります。

◎ 充電池は落下等の外部からの衝撃に大変弱く、故障の原因となります。取扱には充分お気をつけ下さい。

4. 基本操作

1） 本バーコードスキャナでの共通認識として

[桁数]という表現がある場合、初期設定ではスタートストップ(CODE39・NW-7)、チェックキャラクタ(各種バーコード種毎)も含みます。システム設定において、スタートストップ、チェックキャラクタ(末尾文字)を外すことができます。外した場合は桁数に含まれません。

保存するデータ桁数を限定することで、保存するデータ総数が増減します。スタートストップやチェックキャラクタ(末尾文字)を保存しないことで、保存できるデータ総数は微増します。

2） 収集できるデータ

①バーコード1
②バーコード2
③数値入力
④日付時間(内部時計自動取得)

標準

①ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ1
②ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ2
③数値入力
④日付(自動)

NL9728WB では、2つのバーコードと1つの数値のデータを蓄積できます。
データを基幹システムのテーブルにインポートすることにより、
様々な業務を簡易的に処理することができます。

3） 活用例

棚卸

①棚番号
②商品番号
③数量
④日付(自動)

出荷

①受注番号
②商品番号
③出荷数量
④日付(自動)

仕入れ

①発注番号
②商品番号
③受入数量
④日付(自動)

出庫

①顧客番号
②商品番号
③出庫数量
④日付(自動)

入庫

①ロット番号
②商品番号
③入庫数量
④日付(自動)

売上

①伝票番号
②商品番号
③金額
④日付(自動)

生産工程	資産番号	貸出管理
①作業指示番号 ②部品番号 ③数量 ④日付時間(自動)	①所有部門 ②資産番号 ③台数 ④日付(自動)	①会員番号 ②物品番号 ③1:貸出/2:返却 ④日付(自動)

出退勤	入場者管理	ｱﾝｹｰﾄ集計
①- - - ②社員番号 ③1:出勤/2:退勤 ④日付時間(自動)	①受付番号 ②会員番号 ③- - - ④日付時間(自動)	①質問番号 ②回答番号 ③- - - ④日付時間(自動)

４） 「バーコード 1」の設定（ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 有無・ﾊﾞｰ 1：2 回数）

全てのキー一つで起動 > メインメニューの[6. システム設定] > [1. ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 設定] > [1. ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 有無] 若しくは[2. ﾊﾞｰ 1：2 回数]で、収集モードを設定します。

ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 有無:
入力あり :ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 収集前にﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 を登録できます。
入力なし :ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 収集を連続で行います。

ﾊﾞｰ 1：2 回数:
1:1 ： 「ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 あり」の場合、ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 とﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 収集を交互に読み取ります。

1:N ： 「ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 あり」の場合、ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 を一度読み込んだあと、
ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 収集を連続で行います。

＜※ 備考＞
ﾊﾞｰ 1：2 回数は、[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 有無]が[入力なし]に設定されている場合、
無効な設定となります。

５） 数量の設定

全てのキー一つで起動 > メインメニューの[6. システム設定] > [2. 数量設定] > [あり] または[常時 1]で、数量登録モードを設定します。

あり　　:ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 収集後に数量入力画面にて数量を登録できます。

常時１ :数量を常に[1]として登録しますので、
連続して収集(ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 またはﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2)できます。

5. メニュー構成

本バーコードスキャナの電源 OFF は、オートパワーオフ設定により制御され、次回起動時には、前回電源 OFF になったときの画面から開始します。

各種キーの基本的動作は以下のようになります。

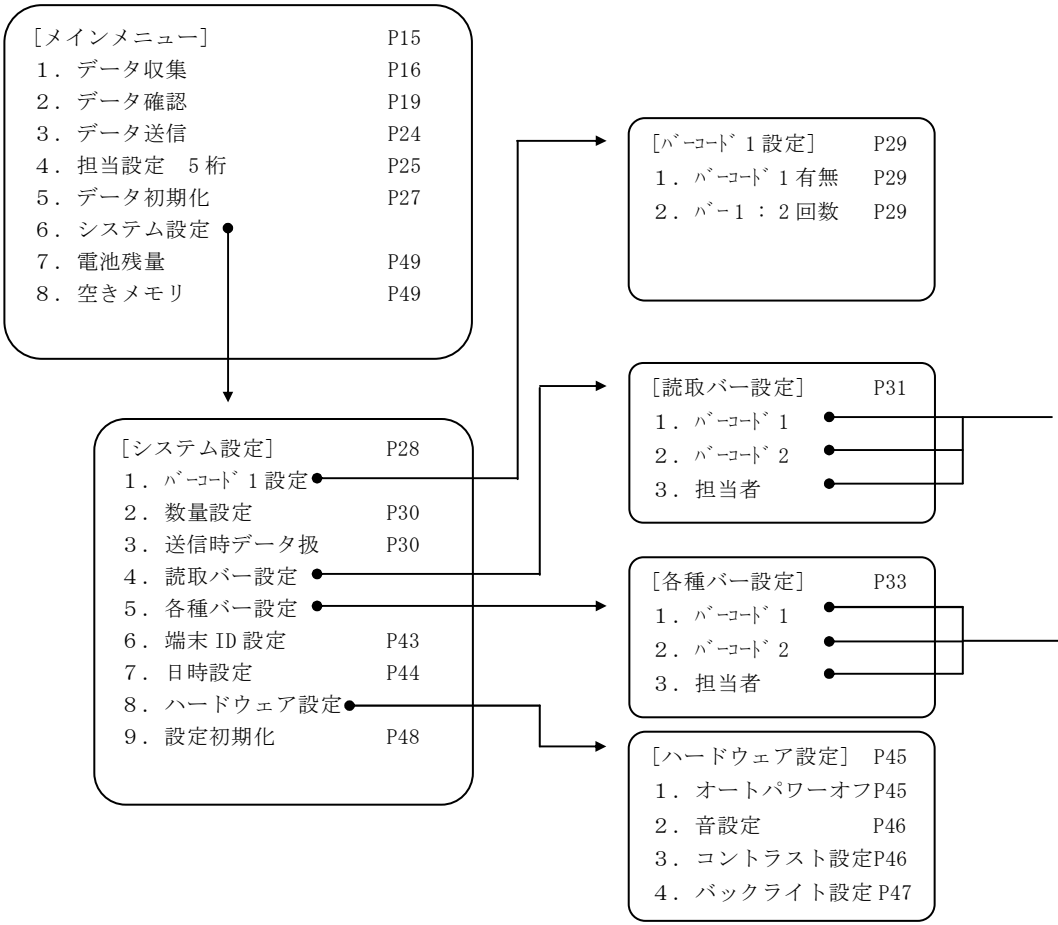
トリガーキー:項目確定、読取り

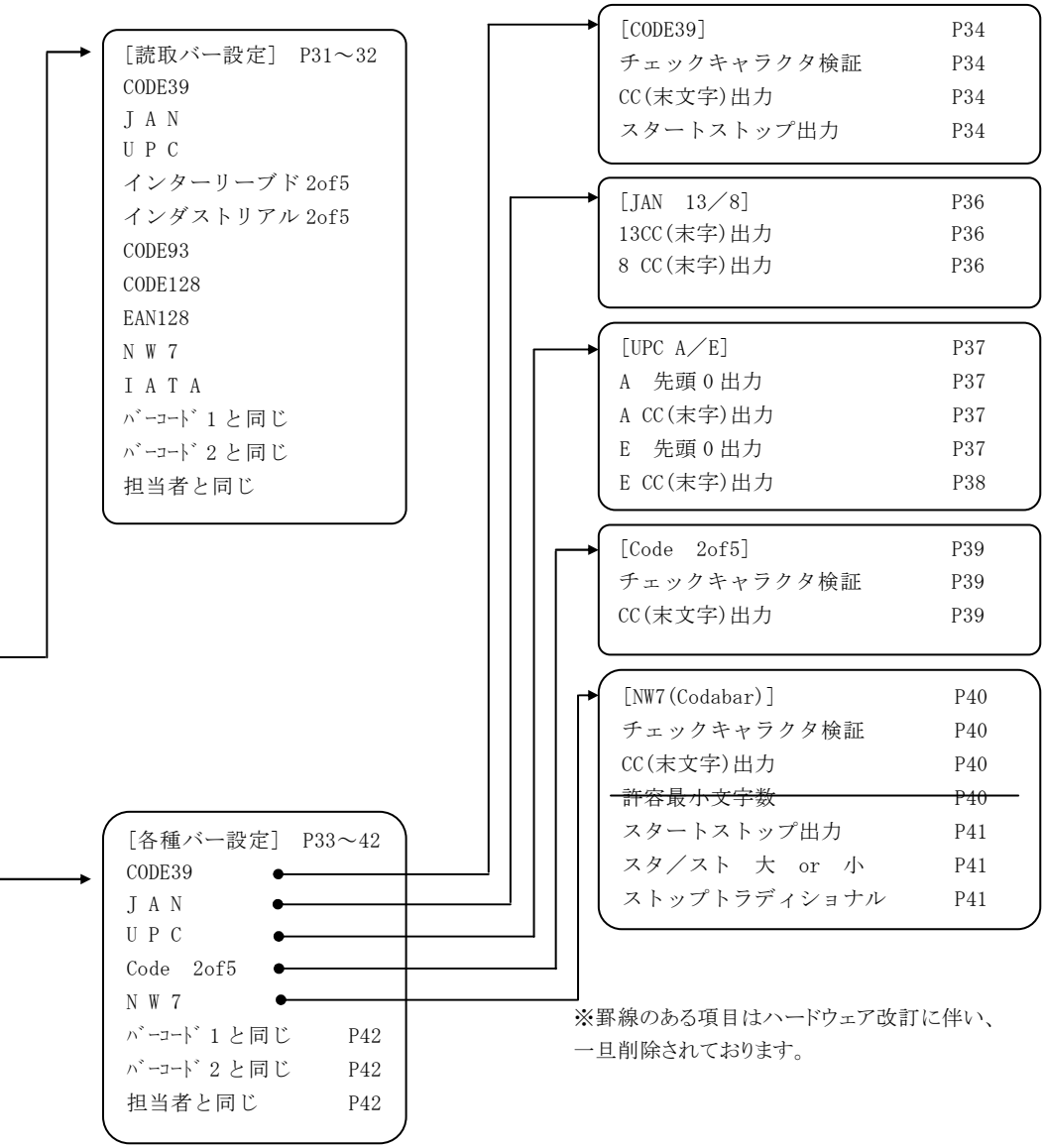
Q1キー:カーソル下へ、前レコードへ

Q2キー:カーソル上へ、次レコードへ

※各画面によって上記動作に倣わない場合もあります。各種画面の説明書をご覧下さい。

本バーコードスキャナのメニュー構成を下記に示します。





※罫線のある項目はハードウェア改訂に伴い、
一旦削除されております。

6. 各種設定のデフォルト(既定)値

設定番号	メニュー	項目	値
1	メインメニュー	担当者設定 5 桁	(空)
2	メインメニュー	初期化[桁数]	20
3	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 有無	入力あり
4	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 設定	ﾊﾞｰ 1 ： 2 回数	1:N
5	システム設定	数量設定	入力あり
6	システム設定	送信時データ扱	残す
7	読取バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1[CODE39]	＊
8	読取バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 [JAN]	＊
9	読取バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 [UPC]	＊
10	読取バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 [ｲﾝﾀｰﾘｰﾌﾞﾄﾞ 2of5]	＊
11	読取バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 [ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘｱﾙ 2of5]	＊
12	読取バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 [CODE93]	＊
13	読取バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 [CODE128]	＊
14	読取バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 [EAN128]	
15	読取バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 [NW7]	＊
16	読取バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 [IATA]	
17	読取バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 [CODE39]	＊
18	読取バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 [JAN]	＊
19	読取バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 [UPC]	＊
20	読取バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 [ｲﾝﾀｰﾘｰﾌﾞﾄﾞ 2of5]	＊
21	読取バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 [ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘｱﾙ 2of5]	＊
22	読取バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 [CODE93]	＊
23	読取バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 [CODE128]	＊
24	読取バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 [EAN128]	
25	読取バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 [NW7]	＊
26	読取バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 [IATA]	
27	読取バー設定	担当者[CODE39]	＊
28	読取バー設定	担当者[JAN]	
29	読取バー設定	担当者[UPC]	
30	読取バー設定	担当者[ｲﾝﾀｰﾘｰﾌﾞﾄﾞ 2of5]	
31	読取バー設定	担当者[ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘｱﾙ 2of5]	
32	読取バー設定	担当者[CODE93]	＊
33	読取バー設定	担当者[CODE128]	＊
34	読取バー設定	担当者[EAN128]	
35	読取バー設定	担当者[NW7]	＊

36	読取バー設定	担当者[IATA]	
	各種バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ1[CODE39]	
37		チェックキャラクタ検証	なし
38		CC(末文字)出力	あり
39		スタートストップ出力	あり
	各種バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ1[JAN 13／8]	
40		13CC(末字)出力	あり
41		8CC(末字)出力	あり
	各種バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ1[UPC A／E]	
42		A 先頭 0 出力	あり
43		A CC(末字)出力	あり
44		E 先頭 0 出力	あり
45		E CC(末字)出力	あり
	各種バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ1[Code 2of5]	
46		チェックキャラクタ検証	なし
47		CC(末文字)出力	あり
	各種バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ1[NW7(Codabar)]	
48		チェックキャラクタ検証	なし
49		CC(末文字)出力	あり
~~50~~		~~許容最小文字数~~	~~なし~~
51		スタートストップ出力	あり
52		スタ／スト 大 or 小	小文字
53		ストップトラディショナル	abcd
	各種バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ2[CODE39]	
54		チェックキャラクタ検証	なし
55		CC(末文字)出力	あり
56		スタートストップ出力	あり
	各種バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ2[JAN 13／8]	
57		13CC(末字)出力	あり
58		8CC(末字)出力	あり
	各種バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ2[UPC A／E]	
59		A 先頭 0 出力	あり
60		A CC(末字)出力	あり
61		E 先頭 0 出力	あり
62		E CC(末字)出力	あり
	各種バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ2[Code 2of5]	
63		チェックキャラクタ検証	なし
64		CC(末文字)出力	あり

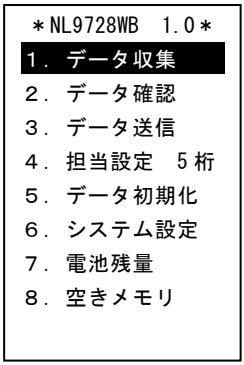
	各種バー設定	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ2［ NW7(Codabar) ］	
65		チェックキャラクタ検証	なし
66		CC(末文字)出力	あり
67		許容最小文字数	なし
68		スタートストップ出力	あり
69		スタ／スト 大 or 小	小文字
70		ストップトラディショナル	abcd
	各種バー設定	担当者［ CODE39 ］	
71		チェックキャラクタ検証	なし
72		CC(末文字)出力	あり
73		スタートストップ出力	あり
	各種バー設定	担当者［ JAN 13／8 ］	
74		13CC(末字)出力	あり
75		8CC(末字)出力	あり
	各種バー設定	担当者［ UPC A／E ］	
76		A 先頭 0 出力	あり
77		A CC(末字)出力	あり
78		E 先頭 0 出力	あり
79		E CC(末字)出力	あり
	各種バー設定	担当者［ Code 2of5 ］	
80		チェックキャラクタ検証	なし
81		CC(末文字)出力	あり
	各種バー設定	担当者［ NW7(Codabar) ］	
82		チェックキャラクタ検証	なし
83		CC(末文字)出力	あり
~~84~~		~~許容最小文字数~~	~~なし~~
85		スタートストップ出力	あり
86		スタ／スト 大 or 小	小文字
87		ストップトラディショナル	abcd
88	システム設定	オートパワーオフ	30 秒
89	システム設定	音設定	あり
90	システム設定	コントラスト設定	6
91	システム設定	バックライト設定	30 秒

※罫線のある項目はハードウェア改訂に伴い、一旦削除されております。

7. 各メニューの説明

A. メインメニュー

NL9728WB の初回の起動時に下記のような画面が表示されます。
(初回に限らず、この画面で電源 OFF となれば、次回起動時もこの画面です。)
[Q1][Q2]キーにより選択項目を変更し、[トリガー]キーで選択を行います。



1. データ収集ー ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ1の読取り、ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 収集、数量入力、データファイルへの保存を行います。[6. システム設定]の設定により、様々な収集を行います。

2. データ確認ー 保存中のデータ確認または1件づつ削除を行います。

3. データ送信ー 保存されたデータを PC へ送信します。

4. 担当設定 5 桁ー 担当者コードを 5 桁以内で設定します。収集作業する担当者をレコード単位で保存できます。

5. データ初期化ー データ設定を指定桁数で初期化します。保存中のデータは消去されます。適切な桁数で初期化をすることにより、スキャナ内に保存可能なレコード数が増減します。

6. システム設定ー 収集に関する設定、端末(スキャナ)ID 設定、読取バー設定、各種バー設定、システム日時設定、ハードウェア設定、などを行います。

7. 電池残量ー スキャナの電池残量を表示します。

8. 空きメモリー スキャナの保存可能レコード数を概算で表示します。

B. データ収集

B.1 開始

[メインメニュー]で[1. データ収集]選択して[トリガー]キーを押します。
[6. システム設定]の[1. ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 設定]及び[2. 数量設定]により、
6 通りの収集工程を選択できます。以下の通りです。

1:[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1] → [ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2] → [数量] ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 に戻る
ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 有無:入力あり、ﾊﾞｰ 1:2 回数:1:1、数量設定:あり

2:[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1] → [ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2] → [数量] ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 に戻る
ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 有無:入力あり、ﾊﾞｰ 1:2 回数:1:N、数量設定:あり

3:[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1] → [ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2] ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 に戻る
ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 有無:入力あり、ﾊﾞｰ 1:2 回数:1:1、数量設定:常時 1

4:[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1] → [ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2] ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 に戻る
ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 有無:入力あり、ﾊﾞｰ 1:2 回数:1:N、数量設定:常時 1

5:[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2] → [数量] ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 に戻る
ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 有無:入力なし、ﾊﾞｰ 1:2 回数:無関係、数量設定:あり

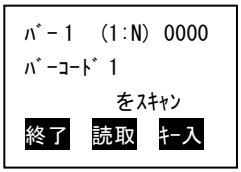
6:[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2]の繰り返し
ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 有無:入力なし、ﾊﾞｰ 1:2 回数:無関係、数量設定:常時 1

	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 有無	ﾊﾞｰ 1:2 回数	数量設定
1	あり	1:1	あり
2(デフォルト)	あり	1:N	あり
3	あり	1:1	常時 1
4	あり	1:N	常時 1
5	なし	-	あり
6	なし	-	常時 1

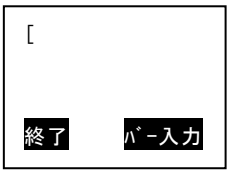
データ収集とシステム設定(設定番号 3,4,5)の相関図

B.2 ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 入力

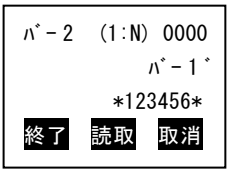
設定番号3の[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 有無]が[入力なし]の場合は、この工程は省かれます。



トリガー待ち画面:



キー入力待ち画面(1:N):



入力後画面(1:N):

[ﾄﾘｶﾞｰ] キーを押すと、バーコードの読取りを行います。読み取った結果は、3行目に表示されます。(上記入力後画面(1:N)参照)

[Q1] キーを押すと収集を中止して、メインメニューに戻ります。

[Q2] キーを押すことで、10 キー入力待ち画面になります。10 キー使用時は[ENT]キーで確定します。確定前の訂正は[BS]キー(一文字削除)及び、[CLR]キー(全部削除)をご利用ください。

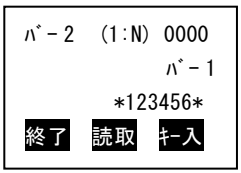
数字(0～9)入力は数字の 10 キーです。アルファベット(A～Z、a～z)は[Shift]キー＋数字 10 キーです。

続いて[ﾄﾘｶﾞｰ]キーを押すと、データ収集を行います。

B.3 収集

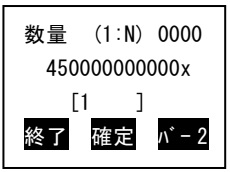
設定番号5の[数量設定]が[あり]の場合の次工程は数量入力です。

[常時 1]の場合は[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 入力]もしくは[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 入力]です。



トリガー待ち画面:

キー入力待ち画面(1:N):



入力後画面(1:1):

[ﾄﾘｶﾞｰ]キーを押して、バーコードの読取りを行います。

[Q1] キーを押すと収集を中止して、メインメニューに戻ります。

[Q2] キーを押すことで、10 キー入力待ち画面になります。10 キー使用時は[ENT]キーで確定します。確定前の訂正は[BS]キー(一文字削除)及び、[CLR]キー(全部削除)をご利用ください。

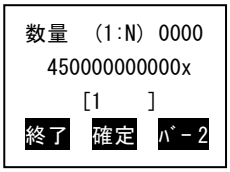
数字(0～9)入力は数字の 10 キーです。アルファベット(A～Z、a～z)は[Shift]キー＋数字 10 キーです。

[Shift]キー＋[Q2]キーを押すことで、[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 入力]へ戻ります。(ﾄﾘｶﾞｰ待ち画面のみ)

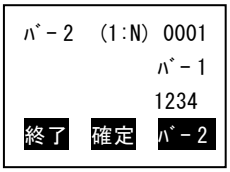
続いて[ﾄﾘｶﾞｰ]キーを押すと、数量入力を行います。

B.4 数量入力

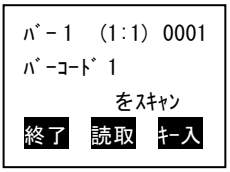
設定番号5の[数量設定]が[常時 1]の場合、この工程は省かれます。



表示変更画面(1:N):



入力後画面(1:N):



入力後画面(1:1):

設定番号5の[数量設定]が[あり]の場合にも、数量 1 で登録する場合は、続けて[トリガー]キーまたは[ENT]キーを押して下さい。

[Q1] キーを押すと収集を中止して、メインメニューに戻ります。

[Q2] キーを押すことで、収集画面に戻ります。

数字(0～9)入力は数字の 10 キーです。アルファベットは入力できません。

10キー使用時は[ENT]キーで確定します。確定前の訂正は[BS]キー(一文字削除)及び、[CLR]キー(全部削除)をご利用ください。

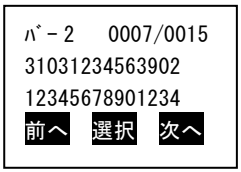
[*] キー、[Shift]＋[0]キーで「－(マイナス)」が入力できます。

C. データ確認

C.1 開始

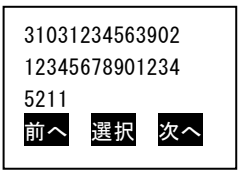
メインメニューで「2. データ確認」を選択して[トリガー]キーを押します。

下記 6 種類の確認画面を選択できます。

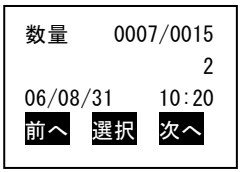


標準:

ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1:

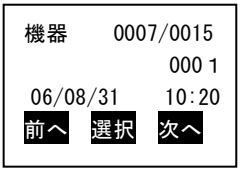


ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2:



数量:

担当者:



機器 ID:

年月日時間	機器 ID	担当者	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2	数量
2006/8/31 10:20	0001	2	(01)12345678901234 (30)12345678(20)12	(3103)123456(3902)12 3456789012345(21)1	2
			設定番号 14[*]	設定番号 24[ ]	

※ 上記表の条件で収集されたデータの確認画面例です。

C.2 確認

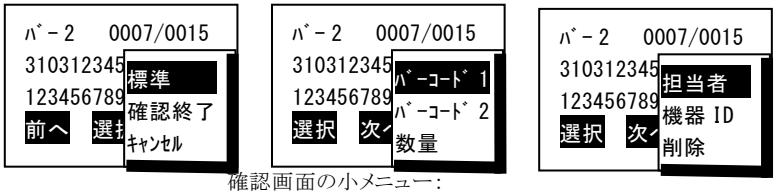
[標準] [バーコード 1] [バーコード 2] [数量] [担当者] [機器 ID]の各説明は下表の通りです。

	標準	バーコード 1
1 行目	ﾊﾞｰ 2　[レコード番号(n 件目)/総数]	[バーコード 1(1～14 桁目)]
2 行目	[バーコード 2(1～14 桁目)]	[バーコード 1(15～28 桁目)]
3 行目	[バーコード 2(15～28 桁目)]	[バーコード 1(29～40 桁目)]
4 行目	[前へ]:前レコードへ　[選択]:小メニュー表示　[次へ]:次のレコードへ	
	バーコード 2	数量
1 行目	[バーコード 2(1～14 桁目)]	数量　[レコード番号(n 件目)/総数]
2 行目	[バーコード 2(15～28 桁目)]	[数量データ]
3 行目	[バーコード 2(29～40 桁目)]	[yy/mm/dd　hh:mm]
4 行目	[前へ]:前レコードへ　[選択]:小メニュー表示　[次へ]:次のレコードへ	
	担当者	機器 ID
1 行目	担当　[レコード番号(n 件目)/総数]	機器　[レコード番号(n 件目)/総数]
2 行目	[担当データ]	[機器 ID データ]
3 行目	[yy/mm/dd　hh:mm]	
4 行目	[前へ]:前レコードへ　[選択]:小メニュー表示　[次へ]:次のレコードへ	

[データ確認]画面説明

C.3 確認画面の小メニュー

[データ確認]画面で、[トリガー]キーを押すと小メニューが表示されます。

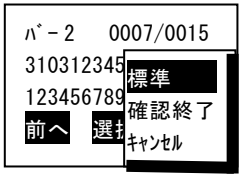


確認画面の小メニュー:

小メニュー	機能
標準	[レコード番号(n 件目)/総数][ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2(1～28 桁目)]
確認終了	[メインメニュー]に戻ります。
キャンセル	小メニューを閉じます。
ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1	バーコード 1(1～40 桁)
ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2	バーコード 2(1～40 桁)
数量	[レコード番号(n 件目)/総数][数量][年月日時分]
担当者	[レコード番号(n 件目)/総数] [担当者][年月日時分]
機器 ID	[レコード番号(n 件目)/総数] [機器 ID][年月日時分]
削除	表示中のデータを一行削除します。

確認画面の小メニュー

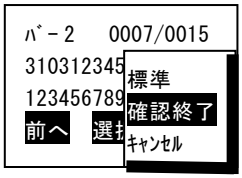
C.3-1 標準



[標準]選択状態で[トリガー]キーを押すと、
[標準画面]が表示されます。([C.1 開始]参照)

確認画面の小メニュー:

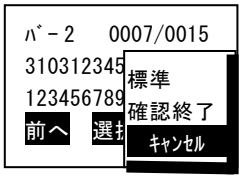
C.3-2 確認終了



[確認終了]選択状態で[トリガー]キーを押すと、
[データ確認]を終了し、[メインメニュー]に戻ります。

確認画面の小メニュー:

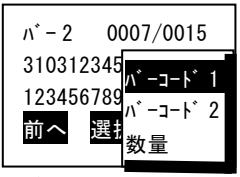
C.3-3 キャンセル



[キャンセル]選択状態で[トリガー]キーを押すと、
小メニューを閉じ、[データ確認]に戻ります。

確認画面の小メニュー:

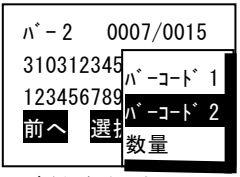
C.3-4 バーコード 1



[バーコード 1]選択状態で[トリガー]キーを押すと、
[バーコード 1 画面]が表示されます。([C.1 開始]参照)

確認画面の小メニュー:

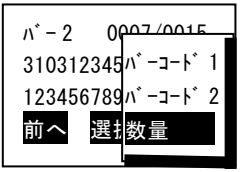
C.3-5 バーコード 2



[バーコード 2]選択状態で[トリガー]キーを押すと、
[バーコード 2 画面]が表示されます。([C.1 開始]参照)

確認画面の小メニュー:

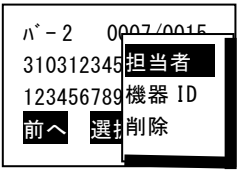
C.3-6 数量



[数量]選択状態で[トリガー]キーを押すと、
[数量画面]が表示されます。([C.1 開始]参照)

確認画面の小メニュー:

C.3-7 担当者



[担当者]選択状態で[トリガー]キーを押すと、
[担当者画面]が表示されます。([C.1 開始]参照)

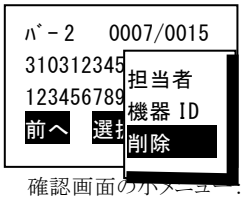
確認画面の小メニュー:

C.3-8 機器 ID

[機器 ID]選択状態で[トリガー]キーを押すと、
[機器 ID 画面]が表示されます。([C.1 開始]参照)

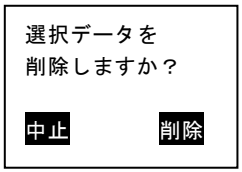
確認画面の小メニュー:

C.3-4 削除



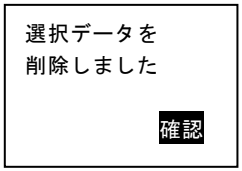
確認画面のポップアップメニュー:

[削除]選択状態(例:上表)で[トリガー]キーを押すと、
削除確認画面が表示されます。



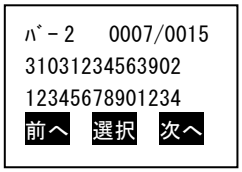
削除確認画面:

[Q2]キーを押すと選択中のレコード 1 件が削除されます。
また、[Q1]キーを押すと、削除を行わず、確認画面に戻ります。



削除完了画面:

削除を行うと確認画面が表示されます。
[Q2]キーを押して終了して下さい。



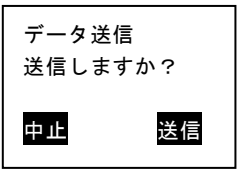
確認画面:

レコード削除後の画面では、総数は 1 件減じて、次のレコード
(最終レコードを削除した場合は、前レコード)を表示します。

D. データ送信

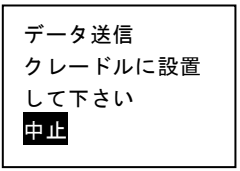
D.1 開始

[メインメニュー]で[3. データ送信]を選択して[トリガー]キーを押します。



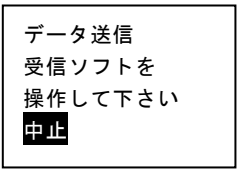
この画面で[Q2]キーを押すと送信待ち状態になります。
[Q1]キーを押すと[メインメニュー]に戻ります。

送信確認画面:



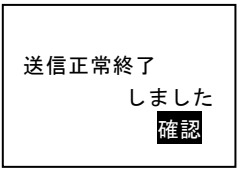
この画面でクレードルに置くと送信を開始します。
[Q1]キーを押すとメインメニューに戻ります。

送信準備画面:



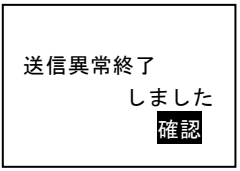
クレードルに置いた時に、左画面になった場合は、
PC 側のソフトを受信状態にして下さい。
[Q1]キーを押すとメインメニューに戻ります。

送信準備画面 2:



送信が正常終了した場合、左画面が表示されます。
[Q2]キーを押すとメインメニューに戻ります。

送信終了画面:



送信が異常終了した場合、左画面が表示されます。
[Q2]キーを押すとメインメニューに戻ります。

送信エラー画面:

送信後のデータの取扱については下表を参考にして下さい。

設定番号 6 の設定値	意味
残す	送信後もデータを保持しています。
消去	送信後、データを消去します。

設定番号 6:「データ送信時データ扱」の設定説明

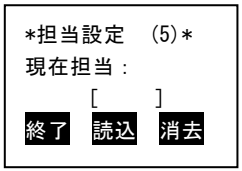
E. 担当設定

E.1 開始

[メインメニュー]で[4. 担当設定　5 桁]を選択して[トリガー]キーを押します。

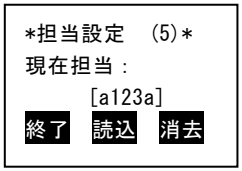
E.2 担当者登録と変更

担当者コードを設定しておくことで、作業担当者をレコードごとに保存できます。
作業途中で変更した場合も、その変更後の作業から、変更後担当者コードが保存されます。



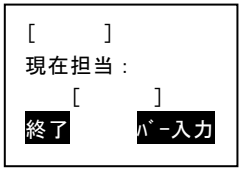
この画面で[トリガー]キーを押すと担当者コードを設定できます。
[Q1]キーを押すと[メインメニュー]に戻ります。
[Q2]キーを押すと登録済担当者をクリアします。
[Shift]+ [Q2]キーでキー入力できます。
3段目の[ ]内に表示された文字が担当者コードとなります。

担当設定及び確認画面:



設定できる担当者コードは最大 5 桁で、スタートストップ、チェックキャラクタ等もデフォルトでは登録対象桁数に含みます。
左図は NW-7(Codabar)スタートストップ付 5 桁の担当者コードの例です。

担当設定及び確認画面:



10 キー使用時は[ENT]キーで確定します。
確定前の訂正は[BS]キー(一文字削除)及び、[CLR]キー(全部削除)をご利用ください。数字(0～9)入力は数字の 10 キーです。
アルファベット(A～Z、a～z)は[Shift]キー＋数字 10 キーです。

担当キー入力画面:

E.3 担当者コード登録時の注意点

担当者コードとして登録したいバーコードが読み取れず登録できない場合には、以下のような場合が考えられます。

○読み取っている対象バーコードの種類が許可されていない。
○読み取っている対象のバーコードデータの桁数が 6 桁以上ある。
○読み取っている対象のバーコードの品質が悪く、バーコードとして成り立っていない。

縞模様である場合以外は、担当者コードとして登録できる場合があります。
設定番号 28～36 の[読取バー設定]-[担当者]にて各バーコード種類に記しを付けて、担当者コードとして許可するバーコード種類を選択して下さい。
上記で許可したバーコード種類について、設定番号 71～87 の[各種バー設定]-[担当者]にて各種バーコードについて設定した場合、[スタートストップ／なし]、[末尾文字／なし]などの設定が可能です。これにより、＊12345＊ など CODE39 でスタートストップを含んで 5 桁を越えている場合、[設定番号 73:スタートストップ出力]をなしにすると、実質 5 桁となり、担当者コードとして登録できます。

CODE39(データ3桁)の例

こちらは、[設定番号 27:読取バー設定-担当者 CODE39]に記がついていれば、

設定番号 73 の設定値	上記バーコード例の場合の担当者コード登録状況	登録担当者コード
あり	登録できます。	＊123＊
なし	登録できます。	123

担当者コード設定説明

CODE39(データ5桁)の例

こちらは、[設定番号 27:読取バー設定-担当者 CODE39]に記がついていた場合でも、設定によっては読み取れない場合があります。

設定番号 73 の設定値	上記バーコード例の場合の担当者コード登録状況	登録担当者コード
あり	登録できません。	－
なし	登録できます。	12345

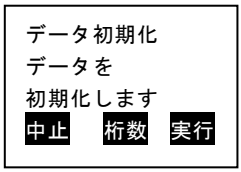
担当者コード設定説明

F. データ初期化

F.1 開始

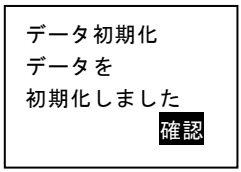
[メインメニュー]で[5. データ初期化]を選択して[トリガー]キーを押します。

F.2 初期化(データ消去)実行



データ初期化画面:

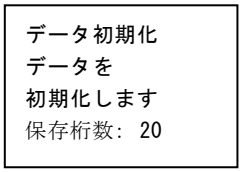
データ初期化の前に左記の確認画面が表示されます。
[Q2]キーを押すと、データを初期化します。
[Q1] キーを押すと、処理を中止して、メインメニューに戻ります。
[トリガー]キーを押すと、読取りバーコード桁数(保存桁数上限)を設定できます。桁数のデフォルト値は[20]です。



データ初期化完了画面:

データ初期化後実行後、左の確認画面が表示されます。
[Q2]キーを押すとメインメニューに戻ります。

F.3 保存桁数変更



保存桁数設定画面:

桁数変更時は4行目に[保存桁数:＊＊](＊＊の値は 01～41)が表示され、[Q1]キーで減少、[Q2]キー上昇させて値を変更して、[トリガー]キーで確定します。

設定保存桁数による
保存可能想定数画面:

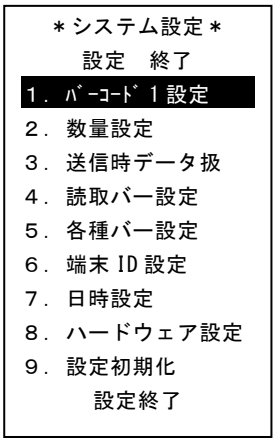
設定した読取りバーコード桁数により、保存データレコード数が増減します。初期化を決定するには[Q2]キーを押してください。
[Q1]キーで中止します。
保存想定回数は、内部に画面情報を持つ関係上、いつも一定ではありませんが、表示されている回数が目安となります。

G. システム設定

G.1 開始

[メインメニュー]で[6. システム設定]を選択して[トリガー]キーを押します。

[Q1][Q2]キーにより、変更確認したい項目を変更し、[トリガー]キーで選択を行います。



1. ﾊﾞｰｺｰﾄ1設定ー 様々な収集条件を設定できます。ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ1有無、ﾊﾞｰ1:2回数(1:1 若しくは 1:N)です。

2. 数量設定ー 数量設定([あり]若しくは[常時 1])を設定します。

3. 送信時データ扱ー PC へデータを送信した直後、そのデータを消去する、若しくは残すのかを設定します。

4. 読取バー設定ー 「ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1」、「ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2」、「担当者」それぞれについて、読取りを許可するバーコード種類を選択できます。(つまり余分なバーコード種類の読取りを禁止できます。)

5. 各種バー設定ー 「ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1」、「ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2」、「担当者」それぞれについて、各種バーコードについて読取り時の設定ができます。チェックキャラクタ検証を行う、末文字出力、スタートストップ出力などで、その設定可能項目は、各バーコード種類によって様々です。

6. 端末 ID 設定ー NL9728WB の個別 ID を設定できます。PC への送信データのレコード先頭に付加します。

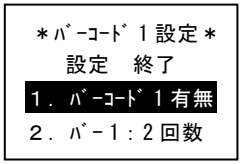
7. 日時設定ー NL9728WB の日付及び時間の設定ができます。データ保存時の時間に使用されます。

8. ハードウェア設定ー NL9728WB のオートパワーオフ時間、音あり／なし、コントラスト濃淡、バックライトあり／なし／点灯時間が設定できます。

9. 設定初期化ー NL9728WB の各種設定項目を初期化します。保存中のデータは削除されます。

前画面に戻る場合は[設定終了]にカーソルを合わせ[トリガー]キーを押してください。

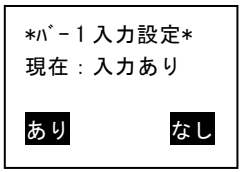
G.2 バーコード 1 設定



[6. システム設定]メニューで[1. ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 設定]を選択すると左記のような画面が表示されます。

G.2-1 ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 有無

[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 設定]画面で、[1. ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 有無]にカーソルを合わせ、[ﾄﾘｶﾞｰ]キーを押します。

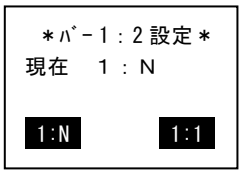


ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 有無設定画面:

設定番号 3 の設定値	機能
入力あり	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 の前にﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 を読み取ります。
入力なし	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 を読みません。

G.2-2 ﾊﾞｰ 1:2 回数

[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 設定]画面で、[2. ﾊﾞｰ 1:2 回数]にカーソルを合わせ、[ﾄﾘｶﾞｰ]キーを押します。



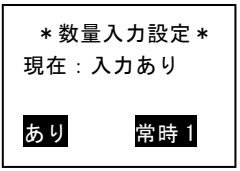
ﾊﾞｰ 1:2 回数画面の小メニュー:

設定番号 4 の設定値	機能
1:1	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 とﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 を交互に読み取ります。
1:N	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 を読んで、ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 を続けて読み取ります。

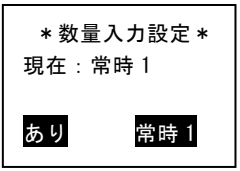
ﾊﾞｰ 1:2 回数画面

G.3 数量設定

[システム設定]メニューで[2. 数量設定]を選択すると下記のような画面が表示されます。
3 段目に現在の設定状況が表示されます。キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1][トリガー][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。



数量設定画面1:



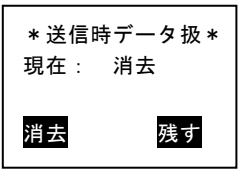
数量設定画面2:

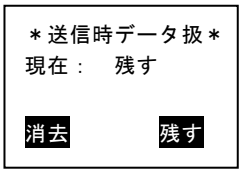
設定番号 5 の設定値	機能
あり	-9999～99999 の数値を登録できます。
常時 1	数量登録画面は表示されず、常に1で登録されます。

設定番号 5:「数量設定」の設定説明

G.4 送信時データ扱設定

[システム設定]メニューで[3. 送信時データ扱]を選択すると下記のような画面が表示されます。
3 段目に現在の設定状況が表示されます。キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。





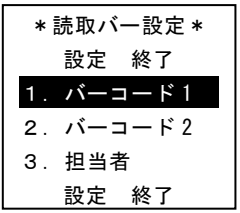
送信時データ扱い設定及び確認画面:

設定番号 6 の設定値	機能
消去	データを PC へ送信後データを削除します。
残す	データを PC へ送信後データを削除しません。

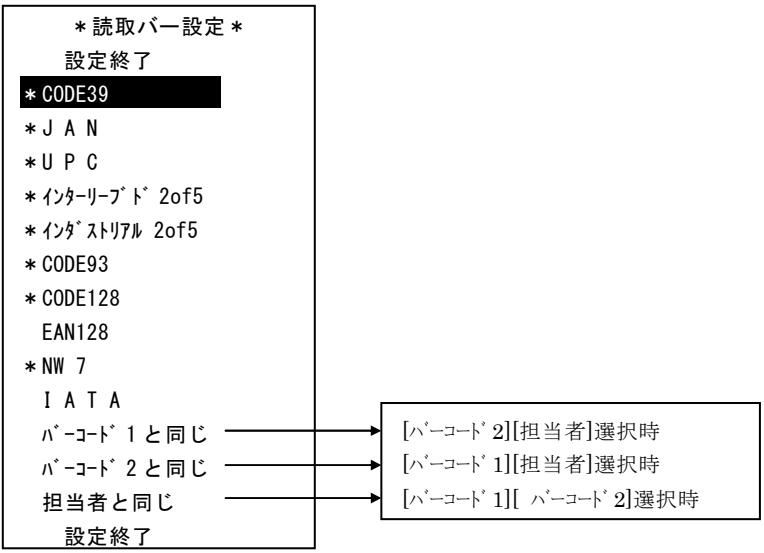
設定番号 6:「送信時データ取扱い」の設定説明

G.5 読取バー設定

[システム設定]メニューで[4. 読取バー設定]を選択すると下記のような画面が表示されます。
[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1]、[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2]、[担当者]それぞれについて、読取り可能なバーコードの種類を設定します。該当項目を[Q1][トリガー][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。前画面に戻る場合は[設定終了]にカーソルを合わせ[トリガー]キーを押してください。



[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1]、[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2]、[担当者]それぞれについて、バーコード種類名の左に[＊]印が付いている場合に読取り可能となります。
[トリガー]キーで[＊]を付けたり外したりします。



読取許可バーコード設定
及び確認画面:

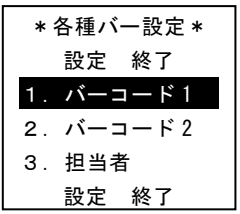
設定番号 7～36 の設定値	機能	
CODE39	CODE39 で作られたバーコードを読取り許可にします。	
JAN	JAN13 及び JAN8 で作られたバーコードを読取り許可にします。	
UPC	UPC-A 及び UPC-E で作られたバーコードを読取り許可にします。	
ｲﾝﾀｰﾘｰﾌﾞﾄﾞ 2of5	インターリーブド 2of5 で作られたバーコードを読取り許可にします。	
ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘｱﾙ 2of5	インダストリアル 2of5 で作られたバーコードを読取り許可にします。	
CODE93	CODE93 で作られたバーコードを読取り許可にします。	
CODE128 EAN128	この2つは組合せで、機能が変わります。 ●CODE128 のみの場合: CODE128 で作られたバーコードを読取り許可にし、EAN128 で作られたバーコードを CODE128 として読取り許可にします(スタートコードの直後の FNC1、AI(10) ロット番号(バッチ番号)のような可変長データの後ろの区切り FNC1 を考慮しません)。 ●EAN128 のみの場合: CODE128 で作られたバーコードを読取り不許可にし、EAN128 で作られたバーコードを EAN128 として読取り許可にします(スタートコードの直後の FNC1、AI(10) ロット番号(バッチ番号)のような可変長データの後ろの区切り FNC1 を考慮します)。 ●両方[＊]付の場合: CODE128 で作られたバーコードを読取り許可にし、EAN128 で作られたバーコードを EAN128 として読取り許可にします(スタートコードの直後の FNC1、AI(10) ロット番号(バッチ番号)のような可変長データの後ろの区切り FNC1 を考慮します)。 ●両方[＊]無の場合: CODE128 で作られたバーコードを読取り不許可にし、EAN128 で作られたバーコードを読取り不許可にします。	
NW-7	NW-7 で作られたバーコードを読取り許可にします。	
IATA	IATA で作られたバーコードを読取り許可にします。	
ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 と同じ	上記設定をﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 の設定と同じに。	[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2]、[担当者]選択時
ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 と同じ	上記設定をﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 の設定と同じに。	[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1][担当者]選択時
担当者と同じ	上記設定を担当者と同じにします。	[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1][ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2]選択時

設定番号 7～36:「読取許可バーコード種類設定」

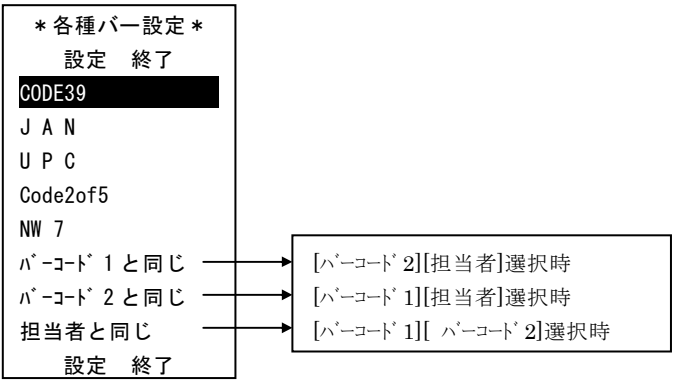
前画面に戻る場合は[設定終了]にカーソルを合わせ[トリガー]キーを押してください。
[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1]、[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2]、[担当者]それぞれで[読取り可能バーコード種類]を絞ることで、業務上の読取りミスを無くします。

G.6 各種バー設定

[システム設定]メニューで[5. 各種バー設定]を選択すると下記のような画面が表示されます。[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1]、[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2]、[担当者]それぞれについて、読取るバーコードの細かな設定をします。該当項目を[Q1][ﾄﾘｶﾞｰ][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。前画面に戻る場合は[設定終了]にカーソルを合わせ[ﾄﾘｶﾞｰ]キーを押してください



[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1]、[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2]、[担当者]それぞれについて、各種読取対象バーコードの読取条件や保存条件を設定します。設定を変更する バーコード種類名を[Q1][ﾄﾘｶﾞｰ][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。



各種バーコード詳細設定画面:

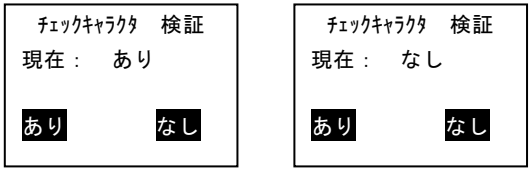
G.6-1 CODE39（各種バー設定）

[各種バー設定]画面で[CODE39]を選択すると下記のような画面が表示されます。

CODE39 各種設定選択画面:

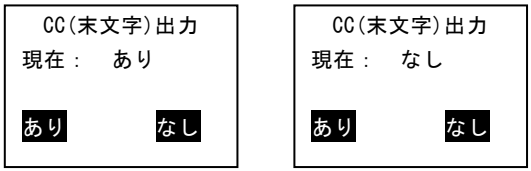
以降の画面では 2 段目に現在の設定状況が表示されます。キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1] [Q2]キーそれぞれで選択して下さい。

G.6-1-1 チェックキャラクタ検証（CODE39 各種バー設定）



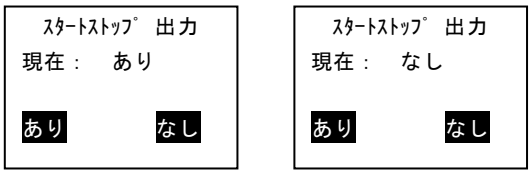
CODE39 チェックキャラクタ検証設定及び確認画面:

G.6-1-2 CC(末文字)出力（CODE39 各種バー設定）



CODE39 チェックキャラクタ(末文字)出力設定及び確認画面:

G.6-1-3 スタートストップ出力（CODE39 各種バー設定）



CODE39 スタートストップ出力設定及び確認画面:

設定番号 37～39、54～56、71～73 の設定値	機能
チェックキャラクタ検証	CODE39 で作られたバーコードを読取る際に、チェックキャラクタ(チェックデジット)モジュラス 43 の検証の有無を設定します。 [あり]の場合、チェックキャラクタが付加されていない若しくは間違っているバーコードは読み取れません。
CC(末文字)出力	[なし]の場合、CODE39 で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、末尾文字を除去します。末尾文字がチェックキャラクタ(チェックデジット) モジュラス 43 かどうかの判定はしていません。
スタートストップ出力	[なし]の場合、CODE39 で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、スタートストップコード(＊アスタリスク)を除去します。

設定番号 37～39、54～56、71～73:「CODE39 詳細設定」

下記バーコードは CODE39 で、[100]にモジュラス 43 チェックキャラクタ(チェックデジット)[1]が付加されたバーコード例です。設定番号 37 を[あり]でも[なし]でも読み取れます。設定番号 37 を[あり] 設定番号 39 を[あり]にすると[*100*]と保存され、設定番号 37 を[あり] 設定番号 39 を[なし]にすると[100]と保存されます。

CODE39 モジュラス 43 チェックキャラクタ付加の例:

下記バーコードは CODE39 で、[100]のバーコード例です(チェックキャラクタ無)。設定番号 37 を[あり]にしていると読み取れません。設定番号 38 を[なし] 設定番号 39 を[あり]にすると[*10*]と保存され、設定番号 38 を[なし] 設定番号 39 を[なし]にすると[10]と保存されます。

CODE39 モジュラス 43 チェックキャラクタ無しの例:

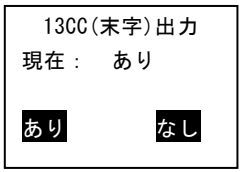
G.6-2 JAN13 JAN8（各種バー設定）

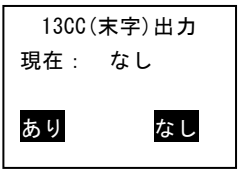
[各種バー設定]画面で[JAN]を選択すると下記のような画面が表示されます。

JAN13/8 各種設定選択画面:

以降の画面では 2 段目に現在の設定状況が表示されます。キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。

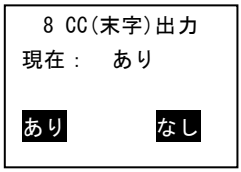
G.6-2-1 13CC(末字)出力 （JAN13 各種バー設定）

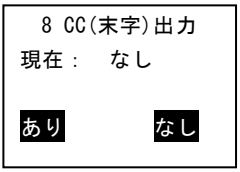




JAN13 チェックキャラクタ(末文字)出力設定及び確認画面:

G.6-2-2 8CC(末字)出力 （JAN8 各種バー設定）





JAN8 チェックキャラクタ(末文字)出力設定及び確認画面:

設定番号 40～41、57～58、74～75 の設定値	機能
13CC(末字)出力	[なし]の場合、JAN13 で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、末尾文字を除去します。末尾文字がチェックキャラクタ(チェックデジット)かどうかの判定はしていません。
8CC(末字)出力	[なし]の場合、JAN8 で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、末尾文字を除去します。末尾文字がチェックキャラクタ(チェックデジット)かどうかの判定はしていません。

設定番号 40～41、57～58、74～75:「JAN13/8 詳細設定」

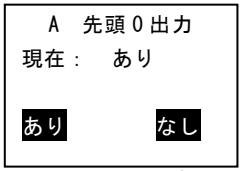
G.6-3 UPC A/E（各種バー設定）

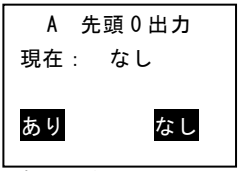
[各種バー設定]画面で[UPC]を選択すると下記のような画面が表示されます。

UPC A/E 各種設定選択画面:

以降の画面では 2 段目に現在の設定状況が表示されます。キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。

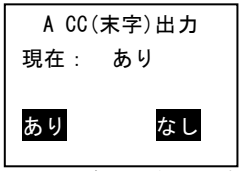
G.6-3-1 A 先頭 0 出力（UPC-A 各種バー設定）

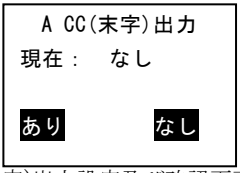




UPC-A 先頭 0 出力設定及び確認画面:

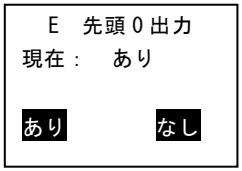
G.6-3-2 A CC(末字)出力（UPC-A 各種バー設定）

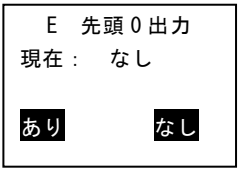




UPC-A チェックキャラクタ(末文字)出力設定及び確認画面:

G.6-3-3 E 先頭 0 出力（UPC-E 各種バー設定）





UPC-E 先頭 0 出力設定及び確認画面:

G.6-3-4 E CC(末字)出力 (UPC-E 各種バー設定)

UPC-E チェックキャラクタ(末文字)出力設定及び確認画面:

設定番号 42～45、59～62、76～79 の設定値	機能
A 先頭 0 出力	[あり]の場合、UPC-A で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、先頭に[0]を付加し 13 桁にし EAN13 として扱います。 [なし]の場合、UPC-A で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、先頭に[0]を付加せず 12 桁にします。
A CC(末字)出力	[なし]の場合、UPC-A で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、末尾文字を除去します。末尾文字がチェックキャラクタ(チェックデジット)かどうかの判定はしていません。
E 先頭 0 出力	[あり]の場合、UPC-E で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、先頭の[0]をそのままに 8 桁とします。 [なし]の場合、UPC-E で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、先頭の[0]を外し 7 桁にします。
E CC(末字)出力	[なし]の場合、UPC-E で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、末尾文字を除去します。末尾文字がチェックキャラクタ(チェックデジット)かどうかの判定はしていません。

設定番号 42～45、59～62、76～79:「UPC A/E 詳細設定」

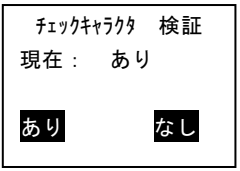
G.6-4 Code 2 of 5（各種バー設定）

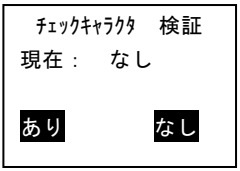
[各種バー設定]画面で[Code2of5]を選択すると下記のような画面が表示されます。

Code 2 of 5 各種設定選択画面:

以降の画面では 2 段目に現在の設定状況が表示されます。キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。

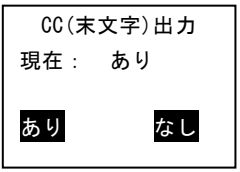
G.6-4-1 チェックキャラクタ検証 （Code 2 of 5 各種バー設定）

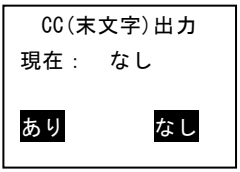




Code 2 of 5 チェックキャラクタ検証設定及び確認画面:

G.6-4-2 CC(末文字)出力 （Code 2 of 5 各種バー設定）





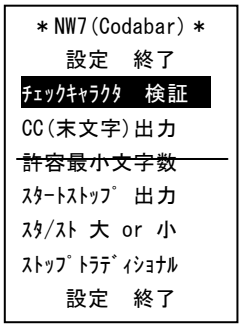
Code 2 of 5 チェックキャラクタ(末文字)出力設定及び確認画面:

設定番号 46～47、63～64、80～81 の設定値	機能
チェックキャラクタ検証	インターリーブド 2of5 及びインダストリアル 2of5 で作られたバーコードを読み取る際に、チェックキャラクタ(チェックデジット)の検証の有無を設定します。 [あり]の場合、チェックキャラクタが付加されていない若しくは間違っているバーコードは読み取れません。
CC(末文字)出力	[なし]の場合、インターリーブド 2of5 及びインダストリアル 2of5 で作られたバーコードを読取った後データ保存する際に、末尾文字を除去します。末尾文字がチェックキャラクタ(チェックデジット)かどうかの判定はしていません。

設定番号 46～47、63～64、80～81:「Code 2 of 5 詳細設定」

G.6-5 NW7（各種バー設定）

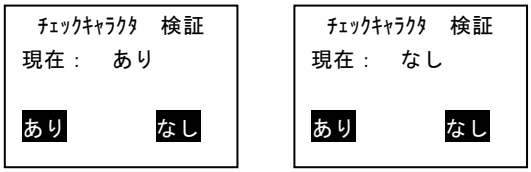
[各種バー設定]画面で[NW7]を選択すると下記のような画面が表示されます。



NW7(Codabar)各種設定選択画面:

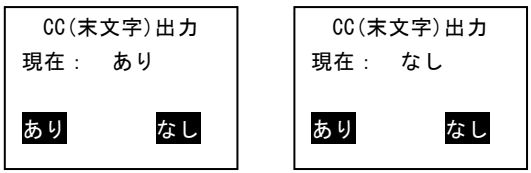
以降の画面では 2 段目に現在の設定状況が表示されます。キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。

G.6-5-1 チェックキャラクタ検証 （NW7 Codabar 各種バー設定）



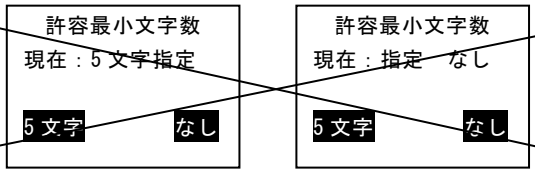
NW7(Codabar)チェックキャラクタ検証設定及び確認画面:

G.6-5-2 CC(末文字)出力 （NW7 Codabar 各種バー設定）



NW7(Codabar)チェックキャラクタ(末文字)出力設定及び確認画面:

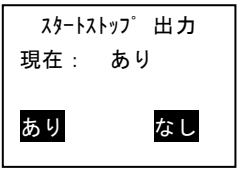
~~### G.6-5-3 許容最小文字数 （NW7 Codabar 各種バー設定）~~

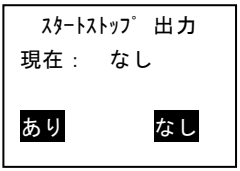
~~  ~~

~~NW7(Codabar)許容最小文字数設定及び確認画面:~~

※ハードウェア改訂に伴い機能削除

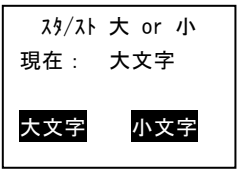
G.6-5-4 スタートストップ出力 (NW7 Codabar 各種バー設定)

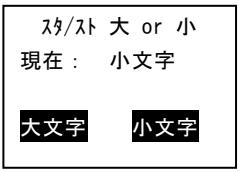




NW7(Codabar) スタートストップ出力設定及び確認画面:

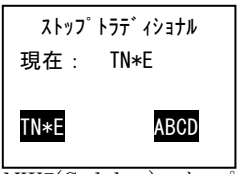
G.6-5-5 スタ／スト 大 or 小 (NW7 Codabar 各種バー設定)

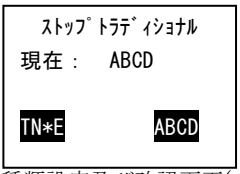




NW7(Codabar) スタートストップ大文字小文字設定及び確認画面:

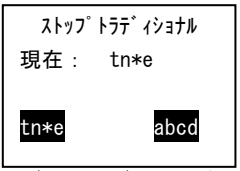
G.6-5-6-1 ストップトラディショナル (NW7 Codabar 各種バー設定)





NW7(Codabar) ストップコード種類設定及び確認画面(大文字時):

G.6-5-6-2 ストップトラディショナル (NW7 Codabar 各種バー設定)



NW7(Codabar) ストップコード種類設定及び確認画面(小文字時):

設定番号 48～53、65～70、82～87 の設定値	機能
チェックキャラクタ検証	NW7(Codabar)で作られたバーコードを読み取る際に、チェックキャラクタ(チェックデジット)モジュラス 16 の検証の有無を設定します。 [あり]の場合、チェックキャラクタが付加されていない若しくは間違っている、チェックキャラクタ計算方法が違う場合、バーコードは読み取れません。
CC(末文字)出力	[なし]の場合、NW7(Codabar)で作られたバーコードを読取った後データ保存する際に、末尾文字を除去します。末尾文字がチェックキャラクタ(チェックデジット)かどうかの判定はしていません。
~~許容最小文字数~~	~~NW7(Codabar)で作られたバーコードの最小桁数を設定できます。[5 文字]とした場合、5 桁未満のバーコードは読めません。~~
スタートストップ出力	[なし]の場合、NW7(Codabar)で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、スタートストップコード(abcdABCDtn*eTN*E)を除去します。
スタ／スト 大 or 小	スタートストップコードを大文字若しくは小文字に選択できます。
ストップトラディショナル	スタートストップコードに関して abcdABCD 若しくは tn*eTN*E に選択できます。

設定番号 48～53、65～70、82～87:「NW7(Codabar)詳細設定」

※罫線のある項目はハードウェア改訂に伴い、一旦削除されております。

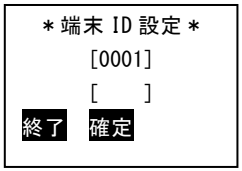
G.6-5-7 [バーコード 1]、[バーコード 2]、[担当者]と同じ

各種バー設定を、他の項目と同一にします。
[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1]の各種バー設定を施したのち、[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2]の各種バー設定が同じ場合、
この機能をご利用ください。
[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2]、[担当者]について先に各種バー設定を施した場合も、他の各種バー設定と同じにする場合、ご利用できます。

項目名	機能	各種バー設定の選択項目
ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 と同じ	上記設定をﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 の設定と同じに。	[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2]、[担当者]選択時
ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 と同じ	上記設定をﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2 の設定と同じに。	[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1][担当者]選択時
担当者と同じ	上記設定を担当者と同じにします。	[ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1][ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 2]選択時

G.7 端末 ID 設定

[システム設定]メニューで[6. 端末 ID 設定]を選択すると下記のような画面が表示されます。
2段目に現在の設定状況が表示されます。 [10キー]、[ENT]キー、[トリガー]キーを使用して端末 ID を変更して下さい。

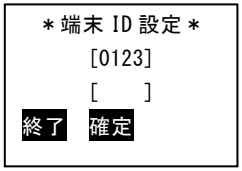


端末 ID 入力画面:

[10 キー]を利用して数字を入力できます。
アルファベットはご利用できません。
[ENT]キーまたは[トリガー]キーで確定します。
登録時は 4 桁の前方“0”埋めです。

端末 ID 入力中画面:

空での登録はできません。



端末 ID 確定後画面:

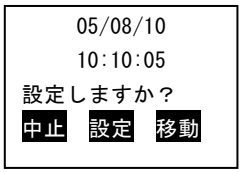
続けて入力し直すこともできます。

G.8 日時設定

[システム設定]メニューで[7. 日時設定]を選択すると下記のような画面が表示されます。
1 段目に日付、2 段目に時間が表示されます。 [Q1]キー、[トリガー]キー、[Q2]キーを使用して日時を変更して下さい。

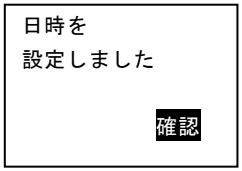
日時設定及び確認画面:

[Q2]キーで変更する桁を移動し、[トリガー]キーで数値を Up させます。[Q1]キーでは変更作業を中止し、[システム設定]画面に戻ります。カーソルは年月日時分秒と左から右、1 段目から 2 段目へ移動します。



日時設定確認画面:

秒の次に[Q2]キーで移動したときに、左記のような画面に変わり、[トリガー]キーは日時の設定ボタンに変わります。[Q1]キーでは変更作業を中止し、[システム設定]画面に戻ります。

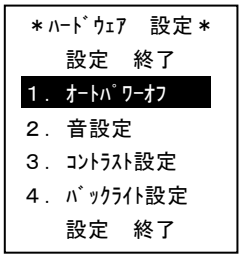


日時設定終了画面:

日時の設定が正しく行われると左記のように表示します。
[Q2]キーで[システム設定]画面を表示します。

G.9 ハードウェア設定

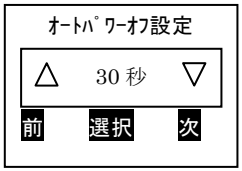
[システム設定]メニューで[8. ハードウェア設定]を選択すると下記のような画面が表示されます。[オートパワーオフ]、[音]、[コントラスト]、[バックライト]それぞれについて設定できます。該当項目を[Q1][トリガー][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。前画面に戻る場合は[設定終了]にカーソルを合わせ[トリガー]キーを押してください。



G.9-1 オートパワーオフ設定

[ハードウェア設定]メニューで[1. オートワパーオフ]を選択すると下記のような画面が表示されます。

2 段目に現在設定されている、自動電源 OFF までの秒が表示されます。 [Q1]キー、[トリガー]キー、[Q2]キーを使用してオートパワーオフを変更して下さい。



[Q1][Q2]キーでリスト選択、 [トリガー]キーで確定させます。

オートパワーオフ設定及び確認画面:

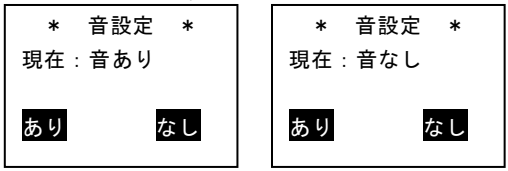
設定番号 88 の設定値	自動電源 OFF までの秒							
オートパワーオフ(秒)	5	10	15	30	45	60	120	180

設定番号 88:「オートパワーオフ設定」

オートパワーオフ時間とは、キー押下などの操作を行わずに、一定時間放置すると、自然に動作が終了するタイマー時間です。終了した状態で、いずれかのキーを押すと、終了した画面から動作が再開します。

G.9-2 音設定

[ハードウェア設定]メニューで[2. 音設定]を選択すると下記のような画面が表示されます。
2 段目に現在設定されている、音設定が表示されます。 [Q1][Q2]キーそれぞれを使用して音設定を変更して下さい。



動作音設定及び確認画面:

キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。

設定番号 89 の設定値	機能
音あり	端末操作時に音が鳴ります。
音なし	端末操作時に音が鳴りません。

設定番号 89:「オートパワーオフ設定」

G.9-3 コントラスト設定

[ハードウェア設定]メニューで[3. コントラスト設定]を選択すると下記のような画面が表示されます。

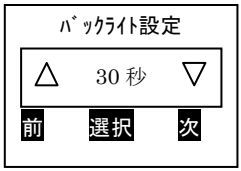
タイトル(*コントラスト設定*)の右横にある数値が現在の設定値です。 [Q1][Q2]キーそれぞれを使用して濃さの調節を行って下さい。設定値の幅は1～30 です。

[トリガー]キーで前画面に戻る際の設定値が適用されます。

G.9-4 バックライト設定

[ハードウェア設定]メニューで[4. バックライト設定]を選択すると下記のような画面が表示されます。

2 段目に現在設定されている、バックライト設定が表示されます。 [Q1]キー、[トリガー]キー、[Q2]キーを使用してバックライト設定を変更して下さい。



[Q1][Q2]キーでリスト選択、 [トリガー]キーで確定させます。

バックライト設定及び確認画面:

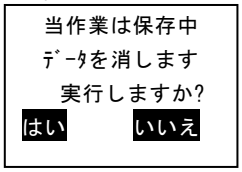
設定番号 91 の設定値	自動電源 OFF までの秒							
バックライト設定(秒)	点灯無し	5	10	15	30	45	60	120

設定番号 91:「バックライト設定」

バックライト設定とは、キー押下などの操作を行った際にバックライトの「点灯」「消灯」を制御する設定です。オートパワーオフの時間より長く設定した場合、オートパワーオフの時間が優先されます。

G.10 設定初期化

[システム設定]メニューで[9. 設定初期化]を選択すると下記のような画面が表示されます。
現在保存中のデータも削除されますので注意が必要です。 [Q1][Q2]キーで作業を選択して下さい。



設定初期化確認画面:

初期化される設定番号は2～87 で以下のとおりです。

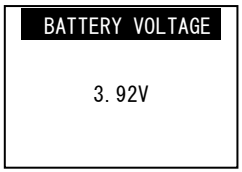
[5.データ初期化]
　保存桁数
[6.システム設定]
　1.ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ 1 設定
　2.数量設定
　3.送信時データ扱
　4.読取バー設定
　5.各種バー設定

初期化後は各種デフォルト値になります。(P12～P14 参照)

H. 電池残量

H.1 開始

[メインメニュー]で[7. 電池残量]を選択して[トリガー]キーを押します。



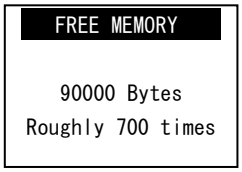
[Q1]キー、[トリガー]キー、[Q2]キーのいずれかでメインメニューに戻ります。

電池残量確認画面:

I. 空きメモリ

I.1 開始

[メインメニュー]で[8. 空きメモリ]を選択して[トリガー]キーを押します。



[Q1]キー、[トリガー]キー、[Q2]キーのいずれかでメインメニューに戻ります。

3 段目に現在の空き容量が表示され、4 段目に残り照合結果保存予定数が表示されます。この保存回数はその時々の空き容量に依存しますので、Roughly(約)という表現になっております。

空きメモリ及び想定保存可能残数確認画面:

あくまで目安としてお考え下さい。

8:仕様

1. 電気的特性	主電池	:リチウムイオン充電池
	副電池	:二酸化マンガンリチウム 2 次電池
	操作時間	:50 時間(主電池)
	データ保持時間	:72 時間(副電池)
	充電方法	:クレードルによる本体充電
2. 環境条件	動作温度	: 0℃ ～ 40℃
	保存温度	: -20℃ ～ 60℃
	動作湿度	: 20% ～ 80%RH(結露無きこと)
	保存湿度	: 20% ～ 90%RH(結露無きこと)
	耐落下強度	:1.5m
3. 光学的特性	光源	:赤色半導体レーザ 波長 650nm
	走査速度	:100 スキャン／秒
	最小 PCS 値	:0.45
	最小分解能	:0.127mm
4. 液晶表示部	表示サイズ	:112 x 64 ドット
	文字の種類	:英数字、漢字
	バックライト	:あり
	表示桁数	:16 ドット 7 桁
5. 機能仕様	CPU	:16bit マイコン
	SRAM	:512KB(内、40KB 弱はプログラム使用)
	読取り確認	:ブザー及び LED
	キーボード	:18キー (Q1、トリガー、Q2、0～9、*、ENT、Shift、BS、CLR)
6. メモリ	記憶データ件数	:5000 件～8400 件 (データ初期化時の保存桁数設定[4～40]によって可変)
7. 適合規格	レーザ製品安全規格 JIS C 6802 Class2 準拠、VCCI クラス B 準拠	
8. 同梱品	リチウムイオン充電池、ハンドストラップ	
9. 通信部	IrDA	:Ver1.2 準拠
	プロトコル	:独自プロトコル (通信速度 115,200bps)

10. 質量　　:約 105g(電池の重さ含む)

11. 外観・寸法　最外形寸法 :(幅)44mm×(長さ)125mm×(高さ)19mm

12. 読取仕様

読取幅

最大 243mm (読取深度 300mm、分解能 1.0 時)

最小 44mm (読取深度 35mm、分解能 0.15 時)

読取幅(mm)	読取深度(mm)	分解能
44	35	0.15
63	60	0.15
71	70	0.15
108	120	0.25
176	210	0.5
243	300	1.0

※読取幅は算出値であり、これを保障するものではありません。

13. 読取りバーコード

以下の8種類のコードを自動識別し読み取ります。

1) WPC

(A) JAN : JAN13, JAN8
(B) EAN : EAN13, EAN8
(C) UPC : UPC-A, UPC-E

2) NW7(Codabar)

3) CODE39

4) インターリーブド 2 of 5

5) インダストリアル 2 of 5

6) CODE93

7) CODE128

8) EAN128

9) I A T A

【補足】

スタートストップやチェックキャラクタ(チェックデジット)等は、
本体プログラムシステム設定によって、桁数に含む・含まないは可変です。

日栄インテック株式会社

バーコードグループ

http://www.barcode.ne.jp/

〒110-0016 東京都台東区台東 3-42-5
日栄インテック御徒町第 1 ビル
TEL:03-5816-7141 FAX:03-5816-7140
info@barcode.ne.jp